

# 菓子店 永続率診断

2007年～2014年の間に、全国の菓子店の事業所数は約30,000店舗から約23,000店舗にまで減少しました。(全体の約25%)原価の高騰、競合環境の激化等、様々な要因がありますが、昨今のような環境下でも強い企業基盤を構築して、未来に向けて続いていくためにどのような数値指標を改善し、高めていく必要があるのかを以下にまとめました。全20項目(各3点)合計60点満点中、御社の数値が何%を示すのかチェックをしてみてください。現状値を知り、何を強化すべきか、何を改善すべきか、ということ把握して下さい。

【○:3点 △:2点 ×:1点】

NO	チェック項目	○	△	×	評価 (○・△・×)	点数
1	経営安全率(赤字店転落余裕度)は10%以上である。 <small>算出式:【経常利益÷(売上高-変動費)】</small>	10%~	4%~9%	~3%		
2	債務償還可能年数(借入償還能力)が5年以内である。 <small>算出式:【有利子負債÷営業キャッシュフロー】</small>	~5年	6年~10年	11年~		
3	自己資本比率(企業生命力)が50%以上である。 <small>算出式:【自己資本÷総資本】</small>	50%~	30%~49%	~29%		
4	流動比率(短期的支払能力)は150%以上である。 <small>算出式:【流動資産÷流動負債】</small>	150%~	100%~149%	~99%		
5	原価率は30%以下である。 <small>※売上高-直接原材料費-個包装費=粗利高として原価率を算出</small>	~30%	31%~38%	39%~		
6	労働分配率は45%以下である。 <small>算出式:【人件費÷粗利高(粗利は売上-直接原材料-個包装費で算出)】</small>	~45%	46%~50%	51%~		
7	工場全体の人時生産性は8,000円(10,000円)以上である。 <small>算出式:【(工場での年間製造金額÷粗利率)÷工場の年間総労働時間】 ※年商7億円までは8,000円以上。7億円以上は10,000円以上</small>	8,000円~ 10,000円~	6,500円~7,999円 7,000円~9,999円	~6,499円 ~6,999円		
8	主力単品の人時生産性は23,000円以上である。 <small>算出式:【(売価×ロット数×粗利率)/製造にかかった労働時間】</small>	23,000円~	18,000円~22,999円	~17,999円		
9	主力単品の人時生産性貢献ポイントは5,000円以上である。 <small>算出式:【単品別の人時生産性×単品売上構成比】</small>	5,000円~	3,500円~4,999円	~3,499円		
10	1店舗平均年商は8,000万円以上である。	8,000万円~	6,500万円~7,999万円	~6,499万円		
11	売上伸張率は105%以上である。	105%~	100%~104%	~99%		
12	1店舗平均年商伸張率は105%以上である。	105%~	100%~104%	~99%		
13	主力商品の売上伸張率は103%以上である。	101%	96%~100%	~95%		
14	1年間の最大日販売量は年商の1.25%以上である。	1.25%~	1.0%~1.24%	0.8%~0.9%		
15	新商品で売上構成比7%以上の単品が存在する。 <small>※新商品は、3年以内に発売した通年焼菓子商品群を対象とする。</small>	7%~	3%~6%	~2%		
16	本店の主商圏(半径2km圏内)売上シェア率は26%以上である。 <small>算出式(シェア率):【本店売上高÷主商圏市場規模】 算出式(主商圏市場規模):【商圏内世帯数×マーケットサイズ 和:23,459円 洋:28,512円】</small>	26%~	19%~25%	~18%		
17	給与上昇は103%である。	103%~	100%~102%	~99%		
18	3年以内社員の離職率は10%以下である。	~10%	11%~20%	20%~		
19	パートスタッフの離職率は15%以下である。	~15%	16%~25%	26%~		
20	社員研修費(OJT)は年商の1%以上である。	1%~	0.6%~0.9%	~0.5%		

合計

## ■菓子店 永続率診断 全体評価

点数	ランク	評価
55点以上	A	超優良企業クラス。利益体制が確立されている状態といえます。蓄積された利益をどんな未来に投資していくのか、ヴィジョン策定が必要になります。
45点～54点以下	B	収益体制は整いつつありますが、油断は禁物です。クリアできていない指標に関しては、早急に課題を把握し、解決させる必要があります。
35点～44点以下	C	まだまだ収益体制が確立されている状態とはいえません。4つのテーマの内、危険ライン以下の点数となっているテーマの改善が急務となります。
19点～34点以下	D	危険クラスに該当するラインです。改善に向けて、まずは企業全体における現状課題の把握が必要です。その上で優先順位を決めて進める必要があります。
18点以下	E	クリアできていない指標項目にもよりますが、企業体制や構造における問題解決をしなければいけない傾向にあるといえます。

## ■テーマ分類ごとの考察

<b>安全性</b>	■経営の安全性を示す指標です。
	■危険ライン: 7点以下(総得点12点中)
	安全性を計るための指標であり、基本的には、各期ごとの業績を回復させ利益性を強化することでクリアしていかなければいけない項目です。安全性指標を改善させていくためには、収益力、育成力、体質力の各指標をクリアし、収益体質を確立していかなければなりません。その前提で、以下の項目の改善に臨んで下さい。

<b>収益力</b>	■企業全体の収益力を表す指標です。
	■危険ライン: 10点以下(総得点18点中)
	収益力が危険ライン以下の企業は以下の問題が起きていると考えられます。 ○全体商品構成の見直し(商品構成成功原則を前提とする)      ○工場内5Sの不徹底 ○地域一番商品の不在または上位5位までの商品弱体化      ○工場内に改善文化が存在しない ○店舗の旧態化→客離れによる慢性的な売上低迷      ○値づけの失敗

<b>育成力</b>	■収益の基盤を作る育成力を示す指標です。
	■危険ライン: 10点以下(総得点18点中)
	育成力が危険ライン以下の企業は以下の問題が起きていると考えられます。 ○店舗の旧態化→客離れによる慢性的な売上低迷      ○年間イベントの旧態化(同じ企画の繰り返し) ○主力単品の旧態化→お客様に飽きられている      ○新商品投入力の低下 ○商品開発力と育成力が低下し、商品力が低迷している

<b>体質力</b>	■社員の帰属意識を表す体質力を示す指標です。
	■危険ライン: 7点以下(総得点12点中)
	体質力が危険ライン以下の企業は以下の問題が起きていると考えられます。 ○収益が出ていないため賞与が出せない(昇給しない)      ○社員への投資が行われていない ○会社のヴィジョンが存在しない。または共有されていない      ○全員参加型の経営体制になっていない ○経営者、幹部と現場スタッフの関わりが少ない